

★シラバス(学習の手引き)★

令和 5 年度版

Abashiri Keiyo High School

教科	商業	学科	商業科・事務情報科	学年	2	年	必修修ではない
科目	財務会計Ⅰ			単位数	3	単位	
使用教科書	財務会計Ⅰ(とうほう)			副教材	全商完全段階式 標準検定簿記問題集 1級会計(とうほう)		

学校教育目標	高い志を立て、自己を練磨し、社会に貢献する人間の育成(立志・練磨)									
育成を目指す 資質・能力	基盤的学力	◎	協働力	◎	論理的思考力	○	傾聴力	○	課題解決能力	○
	表現力	○	判断力	○	考察力	○	情報活用能力	○	コミュニケーション能力	○
	基礎的読解力	○	創造力	○	洞察力	○	継続力	◎	行動力	○
	自己管理能力	○	共感力	○	自己実現力	○	復元力(折れない心)	○	自己肯定感	○
学習の到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動などを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成する。									
	(1)財務会計について実務的に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。									
	(2)企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。									
	(3)会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。									

★評価規準	A:十分満足できる	B:概ね満足できる(基準)	C:努力を要する
★単元ごとの評価規準	★4月～6月下旬までの学習内容		
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
財務会計の概要について理解する。	財務会計及び関連する法規と基準の意義について、企業活動の展開と関連付けて見出す能力を養う。	財務会計の概要について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
★何で評価するか	★何で評価するか	★何で評価するか	
・定期考査 ・実技テスト ・小テスト ・課題やレポート	・定期考査 ・実技テスト ・小テスト ・課題やレポート	・定期考査 ・実技テスト ・小テスト ・課題やレポート	

【学習計画】

月	単元	学習の目標(評価の観点:評価方法)
4	第1編 財務会計の概要	企業会計と財務会計の意義・役割、財務諸表の構成要素など財務会計に関する知識などを基盤として、財務会計及び関連する法規と基準の意義について自らの考えをもつとともに、適切な会計情報の提供と効果的な活用についての意識と意欲を高め、組織の一員としての役割を果たすことができるようになる。
5	第2編 会計処理 第1章 資産の分類と評価 第2章 現金と預金 第3章 売上債権	資産と負債の分類とその基準、銀行勘定調整表の作成方法、クレジット売掛金の会計処理、電子記録債権・債務の会計処理、金銭債権の区分と期末評価について扱う。
6	第4章 有価証券 第5章 棚卸資産・その他の流動資産 第6章 有形固定資産	有価証券の会計処理と期末評価、資産の評価基準、棚卸資産の会計処理と期末評価、有形固定資産の概念と会計処理、無形固定資産の概念と期末評価、自社利用目的のソフトウェアのい会計処理について扱う。

★単元ごとの評価規準	★7月上旬～9月下旬までの学習内容		
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
会計処理について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	会計処理に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見出し、科学的な根拠に基づいて課題に対応する能力を養う。	会計処理について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
★何で評価するか	★何で評価するか	★何で評価するか	
・定期考査 ・実技テスト ・小テスト ・課題やレポート	・定期考査 ・実技テスト ・小テスト ・課題やレポート	・定期考査 ・実技テスト ・小テスト ・課題やレポート	

自己評価	実際評価		
観点	観点		
① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③

7	第7章 リース会計 第8章 無形固定資産・研究開発費と開発費	リース取引に伴う借手側の会計処理、退職給付の会計処理及び負債性引当金の会計処理について扱う。
---	-----------------------------------	--

8	第9章 負債の意味・分類	負債の意味と分類について扱う。
9	第10章 株式会社の設立・開業と株式の発行 第11章 当期純損益の計上と剰余金の配当・処分	株式会社の設立時と開業時の会計処理、資本金の増加と減少の会計処理、資本剰余金と利益剰余金の会計処理について扱う。

★単元ごとの評価規準		★10月上旬～3月下旬までの学習内容
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	会計及び関連する法規と基準の意義について、企業活動の展開と関連付けて見い出す能力を養う。	財務会計の概要について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
★何で評価するか ・定期考査 ・実技テスト ・小テスト ・課題やレポート	★何で評価するか ・定期考査 ・実技テスト ・小テスト ・課題やレポート	★何で評価するか ・定期考査 ・実技テスト ・小テスト ・課題やレポート

自己評価			実際評価		
観点			観点		
①	②	③	①	②	③

10	第12章 純資産の意味・分類	自己株式の概念と取得・処分・消却の会計処理及び新株予約権の概念と発行・権利行使の会計処理について扱う。
11	第13章 収益・費用の認識と測定	工事契約の会計処理、売上割引と仕入割引の会計処理について扱う。
12	第14章 税 第15章 外貨建取引	株式会社における法人税、住民税、事業税の会計処理について扱う。また、企業会計上の利益と税法上の課税所得の違い、税効果会計の意義及び将来減算一時差異と将来加算一時差異に関する基礎的な会計処理、外貨建取引の会計処理について扱う。
1	第Ⅲ編 財務諸表の作成	報告式の貸借対照表の表示区分を作成方法及び株主資本変動計算書の意義と作成方法について扱い、貸借対照表や株主資本等変動計算書を作成する学習活動を行う。
2	第Ⅳ編 財務諸表分析の基礎 第1章 財務諸表分析の意義	財務諸表分析の意義・種類及び企業の財務諸表を入手する方法について扱う。
3	第2章 財務諸表分析の方法	財務指標の概念及び収益性、成長性、安全性の面から企業の実態を分析する方法について扱い、財務指標の具体的な例を用いて、同一企業における期間比較や同業他社比較など財務諸表を分析する学習活動を行う。

★最終評価総括(自己評価／実際評価)					
①知識・技能		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度	

自己評価総括			実際評価総括		
①	②	③	①	②	③

◎前期振り返り	◎後期振り返り	▶備考